

発行日
平成27年
(2015)
10月1日

第93号

熟年

じゅく ねん

編集発行
姫路市老人クラブ連合会
(姫路市生涯クラブ)
〒670-0943
姫路市市之郷1006番地8
姫路市すこやかセンター内
TEL (079) 223-6855
FAX (079) 223-6128



スポーツを楽しむ

姫路市老人クラブ連合会

副会長 西村 正幸



平成二十七年年度の姫路市老人クラブ連合会、健康福祉部の事業であるニュースポーツ大会が開催されました。

昨年は二ラウンドで開催されましたが、大会が終わった後で参加者からもう少し楽しみたいとの要望を聞き、部会・本部と共に検討した結果、レーン数を十一レーンにすればもう一ラウンド増やしても同じ時間内で終了することが出来るかと判断しました。

スポーツには練習や大会がありますが、私は必ず楽しんで行うものと考えています。スポーツにもいろいろありますが、そのスポーツに合った楽しみ方を見つけることが唯一続けていける方法と信じています。

また、もう一つのイベントとして姫路市高齢者スポーツ大会があります。参加するときには、よし今日は楽しんでやるぞと思うこと、そうすれば顔もほころび、やわらかくなり笑顔も出てきます。その気持ちでゲームを展開して下さい。

皆さんから大会に向けての要望・意見等が多く寄せられます。遠いところからの参加の方法や観覧場所の関係についても協議を重ねていますが、皆さんに平等と思っただけの提案をすることが短期間では困難であることをお許しいただきながら、皆さんとも話をした上で今後も協議を進めていきたいと考えています。

追伸として、皆様が老人クラブの諸行事におきましてもそれぞれの楽しみを見つけていただくように希望しております。

白米
の皆さん
の米

大正六年生まれの方

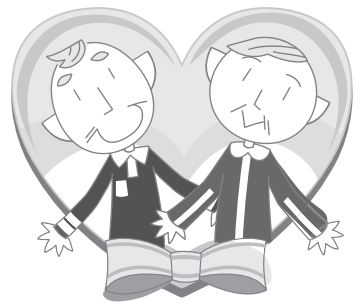
白寿

男	十七人
女	七十八人
合計	九十五人

校区

お名前

城	城	城	城	荒	高	花	谷		別		御	四
南	翼	西	川	川	岡	田	外	所	野	郷	国	郷
今	川	石	松	木	大	吉	家	長	岸	笹	澤	中
井	上	川	井	田	西	田	木	崎	田	野	田	井
き	り	り	すみ	美	光	操	志	ト	日出	熊	範	た
志	き	う	み	智	江	夫	ず	シ	子	次	隆	か
			恵	コ			子		ゑ	郎		の



				英賀保	津田		飾磨西		飾磨東	大塩	的形	八木						白浜	糸引	四郷	
亀山つゆ	八木藤江	井上クメノ	上坂ますえ	坂根文子	蒲田豊子	山根すえ子	松崎ちよの	松井和子	野田勝太郎	黒川静子	柴田千代子	石橋ちよ子	元砂こため	加藤政義	梶田きよ乃	松浦トミエ	山崎ふさゑ	釘本義雄	中谷さかえ	榊原しず	西山ちよゑ

林田	曾左	青山	白鳥	勝原	旭陽	余部	網千西	網干	大津茂	大津	八幡	広畑	妻鹿	高浜													
安高	池田	横井	藤本	梶原	鷺野	春名	木村	中村	横田	松本	吉田	広田	江端	中山	栗山	五島	大野	矢野	後藤	井上	北田	浅井	中溝	西野	山口	森	
永橋	た	と	か	美	壽	花	政	は	み	よし	秀	光	さ	初	美	梅	初	さ	鶴	み	繁	き	愛	恒	静	恵	よし
タ	たま	とき	かず	行	子	子	二	つ	の	え	夫	子	だ	子	代	子	枝	き	実	子	一	の	子	太郎	子	美	子

米寿

昭和三年生まれの方
全千二百九十人

香 川 南	上 菅	菅 生	家 島	安 室		広 峰	城 乾	城 北	野 里		山 田	船 津	豊 富	砥 堀	増 位	水 上									
濱	井	幸	谷	永	霞	安	小	中	肥	橋	萩	田	福	前	福	藤	垣	高	高	浅	三	河	加	桑	畑
田	寄	田	口	安	末	積	林	里	塚	本	原	村	元	田	本	田	岡	部	橋	田	木	本	藤	名	田
き よ ゑ	ミ ツ ノ	カ ン	十 一	美 知 子	の ぶ	あい 子	文 子	ヒ ヤ ク	利 夫	ま す	ハ ル エ	久 子	イ ク	久 雄	梅 子	せ つ	重 乃	み つ 子	幾 重	秀 子	健 造	まつ え	泰 貫	初 子	万 亀 子

長寿社会と

生涯現役

本年度、九十五人の方が白寿を迎えられました。米寿は千二百九十人。これらの方々に、心からお祝いを申し上げます。

長 全国の警察に届け出のあった認知症の行方不明者が、昨年一年間で一万七千八百八十三人に上り、このうち百六十八人の所在が分からなかったことが警察のまとめでわかった。

警察は、家族から「行方不明者届」を受理して不明者を搜索し、身体的特徴や着衣などの情報をデータベースに登録している。

男女別の内訳は、男性六千三百三十人、女性四千六百五十三人。都道府県別では、大阪が千九百二十一人と最多で、兵庫が千二百七人で次いだ。

保護されても氏名を言えない認知症の人もおり、警察は衣服や靴に名前を書くなど身元特定のための工夫を呼び掛けている。

お詫びと訂正

熟年九十二号の記事に誤りがありましたので、お詫びして訂正させていただきます。

ニ
ス
ー
ジ

誤 豊 五ページ

誤
木村

進
↓
正
木村
雅二

正
豊国
俊春

「自転車運転者講習」受講義務の 対象となる 危険行為 の概要

令第41条の3

歩行者用道路での歩行者妨害 法第9条違反 自転車の通行が認められている歩行者用道路を通行する際に、歩行者に注意を払わなかったり、徐行しなかったりする行為	歩道通行や車道の右側通行等 法第17条第1項、第4項又は第6項違反 車道と歩道等が区別されている道路で歩道を通行したり、道路(車道)の右側を通行する行為 ※道路の右側に設けられた路側帯を通行する行為もこの違反になります。	信号無視 法第7条違反	通行禁止道路(場所)の通行 法第8条第1項違反 「歩行者用道路」など、道路標識等で自転車の通行が禁止されている道路や場所(歩行者天国など)を通行する行為 ※警察署長の許可を得た場合は除きます。
左方車優先妨害・優先道路車妨害等 法第36条違反 信号のない交差点等で、左からくる交差車両や優先道路などを通行する交差車両等の進行を妨害したり、交差点に入るときに徐行しないなどの行為	右折時、直進車や左折車への通行妨害 法第37条違反 交差点で右折するときに、その交差点で直進や左折をしようとする車両等の進行を妨害する行為	路側帯での歩行者の通行妨害 法第17条の2第2項違反 自転車が通行できる路側帯で歩行者の通行を妨げるような速度と方法で通行する行為	遮断路切への立ち入り 法第33条第2項違反 遮断機が閉じていたり、閉じようとしていたり、または警報機が鳴っているときに踏切に立ち入る行為
歩道での歩行者妨害等 法第63条の4第2項違反 歩道の車道寄り部分や通行指定部分を徐行しなかったり、歩行者の通行を妨害しそうな一時的停止などの行為	制動装置不備の自転車の運転 法第63条の9第1項違反 ブレーキ装置がなかったりブレーキの性能が不良な自転車で走行する行為 ※前輪・後輪の一方にしかブレーキがない自転車で走行する行為も違反です。	環状交差点安全進行義務違反等 法第37条の2違反 環状交差点内を通行する車両等の進行を妨害したり、環状交差点に入るときに徐行しないなどの行為	酒酔い運転 法第65条第1項違反
			一時不停止 法第43条違反 一時停止標識等を無視して交差点に進入したり、交差道路を通行する車両等の進行を妨害する行為
			安全運転義務違反 法第70条違反 ハンドルやブレーキ等を確実に操作せず、また他人に危害を及ぼすような速度や方法で運転する行為 ※傘さし運転やながらスマホ運転で事故を起こした場合も、安全運転義務違反になることがあります。

(姫路交通安全協会・姫路警察署チラシより抜粋)

臨時福祉給付金の申請はお済みですか

平成27年度も「臨時福祉給付金」が支給されます。申請受付期間は平成28年2月3日までとなっております。申請がお済みでない方はお早めにお手続きください。

◆問い合わせ先 姫路市 臨時給付金コールセンター
TEL 079-240-9166

「臨時福祉給付金」を装った振り込め詐欺や個人情報の詐取にご注意ください。

ニューリーダー研修会

6月26日(金) あいめっせホール



本年度新たに校地区や単位クラブの会長になられた方にお集まり頂いて、恒例のニューリー



ダー研修会が、イーグレひめじのあいめっせホールで開催されました。挨拶に続いて、生きがい推進課の花幡課長と濱田係長、生涯クラブ連合会の会長、副会長、事務局職員の紹介があり、その後、ベテラン会長、女性部代表による事例発表が行われました。

事例発表をされた方は次の通り。

敬称略

○吉田 加代子(峰相校区)

○上月 俊 弘(広峰校区)

特別講演

○吉田 紀

(生涯現役推進部スポーツ振興課)

校区女性幹部代表研修会

6月12日(金) 市民会館4階



少子高齢化が急速に進んでいる状況は姫路市も例外ではありません。その様な状況下において、姫路市老人クラブ連合会として皆が健康で生きがいを抱きながら積極的に地域と融合すること、各人が高齢社会を乗り切り「生涯現役」に繋がるものと思います。

老人クラブ女性部役員は女性の視点から様々な企画立案を行い、活動できる長所があります。地域の担い手としての役割を充分認識し、相互の連携を計りながら尚一層の質的向上を図ることを目的として、校区女性幹部代表研修会が先般、姫路市市民会館に於いて開催されました。

研修会は午前10時より老人クラブ連合会の奥西会長の開会挨拶に始まり、姫路市生きがい推進課の花幡課長が挨拶されました。続いて女性部の主要な活動テーマであ

る「友愛活動」と「愛の募金」について説明がありました。

友愛活動は最も重要な施策で訪問対象者、訪問回数等、訪問時におけるきめ細かな配慮と対応等が必須条件とされること。また、愛の募金事業については募金事業への幅広い理解と協力、募金を基とする活動として、友愛訪問時の訪問品作り等、研修として各ブロックごとの「シルバーヘルパー養成研修会」についての説明があり、質疑応答と活発な意見交換が席上行われました。その後、机を移動して訪問品作成に入り、今年度の訪問品は「小物入れ」です。作業はスムーズにはかどっているグループ、悪戦苦闘をされているグループ等、和やかな雰囲気、終始楽しく有意義な時間となりました。

最後に閉会の挨拶を原副会長がされ、昼過ぎの終了となりました。



高齢者作品展

8月26日(水)～31日(月)
イーグレひめじ (市民ギャラリー)

修復を終えた姫路城を間近に望むイーグレひめじ。その地下に設けられた市民ギャラリーで、個性ゆたかで自信あふれた作品が展示されました。

市民ギャラリーに訪れた方は、出展目録と作品を確認しながら熱心に回っておられました。
この姫路市高齢者作品展は今年で四十一回目になりました。
分野別の出品数は左の通りです。

搬入搬出は大変ですが、来年も奮って出品されますようお願い致します。

分野別出品作品数

洋画	四十三点
日本画	十八点
書画	六十点
水墨画	三十四点
写真	五十三点
彫刻	二十点
盆栽	五點
陶芸	十二点
工芸	十九点
ちぎり絵	二十一点
すこやか人形	十二点
パッチワーク	二十四点
手芸	六十点
絵手紙	九点
その他	十五点
合計	四百五十五点



姫路市第三十七回
芸術文化賞授賞
工芸部 播磨木工(剝物師)
高岡校区 山名秀圭氏
やま な しゅう けい

昭和四十七年、剝物師として播磨木工芸の中心的存在であった市川周道の弟子で、姫路で名高い剝物師であった大村雲谷に入門し、伝統的な彫刻技術を学ぶ。
以降、明治期以来姫路剝物の伝統的な技法を継承してきた小竹斎一門の最後の後継者として、盆などの煎茶道具を中心に制作を続けてきた。
材料には、桑や樺、松等を用い、素材の物徴を生かし、じっくりと時間をかけて仕上げる。網代彫や象嵌をほどこした作品が多い。
郷土の伝統木工芸である姫路剝物の作品制作に取り組むとともに、伝統的な技法の継承に努めるなど地域文化の向上に尽くされた。

主張・随想

憧れのTさん

安室校区 一井美智子

イーグレ地下展示室で、二回目の個展が開かれました。今までの努力の集大成として、年令を感じさせない、すばらしい作品ばかりでした。

女性も趣味をもち、子育ての終わった頃には目標を持って、歩んで行かなければと、コッコツと始められ、最初は尾田龍先生(故人)に師事し、自転車に荷物を積んで通われました。身近にある薔薇から始まり菜の花、椿などを描き、消したりの繰り返し、五十号、百号の田園風景など、立派な作品が出来上がっていました。

好古学園で学び、よき仲間も出来て、何事も前向きで、描く楽しみを見出され、一冊の本も出来上がり、見てもらいたいとのことでした。

子どもの頃に、おじいちゃんの手伝いで田を耕す時、牛の鼻倉を持つ

て前に進んでいたと、びっくりさせられました。インドへ旅行した時に、牛があちこち歩いていても恐ろしくなかったとのこと、いやもう素敵なお姉さんでした。

金魚藻アナカリス

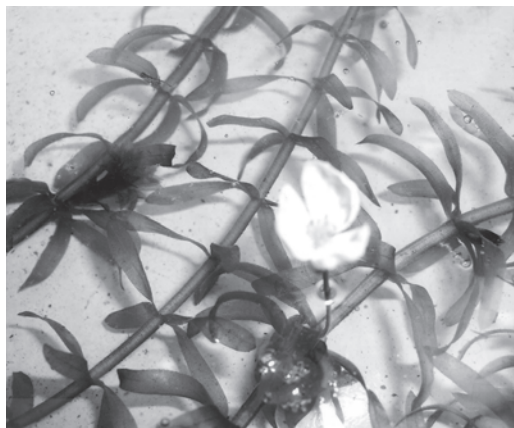
大津校区 吉田 禮子

孫たちが小さい頃、川に行つて鮒やメダカ、泥鰌^{ドジョウ}等をたくさん取つて来ました。その孫たちもだんだん来なくなったので、自分のメダカをとつて来て、長い間飼っています。夏になると幼魚が生まれ、冬を越して少し減りました。三年程前に近所の方から赤いメダカを頂き、今は黒メダカ三匹、赤メダカ三匹、子供が五匹生まれています。(大きくなるかなー)。

金魚藻も川へ取りに行つて、細い葉の藻ばかり取り、太いのは取りませんでしたが、去年は太い葉しか取れなくてしかたなく入れました。

グラウンドゴルフから帰つて見ると小さな白い花が咲いていました。弟に写真を撮ってもらつてパソコンで色々調べてもらい、金魚藻・アナカリスで花も咲くことがわかりました。そうこうしているとお昼前にな

り、花も萎みかけ命短い花であることもわかりました。また、花を咲かせるのに挑戦したいと思つていました。



終戦前の思い出

網走西校区 松本 秀夫

昭和二十年、長男が誕生した後、再度姫路師団司令部から召集令状が届いた。姫路に待機と思つたが、すぐに九州宮崎県へ。日南の学校の一部が司令部になりました。生徒たちはみんな裸足で通学。私たちが銃はあっても弾は無く、水筒も竹筒だった。近くに飛行場はあっても飛行機は一機もありませんでした。時たま

飛んでくるのは敵機で二回機銃掃射を受けた。中国で足元に強い霰が降つて来たように機関銃で撃つてきたのを思い出しました。

次々と日本各都市が爆撃され、姫路も焦土になったことを知りました。同じ頃、沖縄で米軍の艦砲射撃が始まり、地上戦へと移った時、師団長が「もう一ヶ月したら必ず、この日南にも米軍が上陸してくるから」と言われたので、家族へ覚悟の辞世の手紙を書きました。その後、広島、長崎への新爆弾(原子爆弾)投下をニュースで知り、後、米軍機から日南にも爆弾投下をするという予告ビラが撒かれた。上官より泳ぐこともあるからと言われ、近くの大きな池で泳いだら沢山のいもりがいた。やがて終戦。玉音放送をラジオで聞いて泣く者もいた。不安から安堵に変わった時の夜は何故か眠れなかった。

終戦から七十年。今まで続いた平和の有難さを身を持って体験しました。

新茶に寄せて

曾左校区 福本 貞子

今年も又新茶が届く

その名は知覧茶

知覧の文字を見るだけで

凛々しい青年の顔と機影が浮かぶ
年端もゆかぬ少年や青年たちが

飛び立って行った飛行場

もしかしてそこが

今は茶畑になっているのでは

ないだろうか

初摘みの茶は御主人と二人仲良く

笑いながら飲んで下さい

そして長生きして下さいね

贈ってくれた友の弁 でも一番

最初の一服若き英霊に捧げよう

あたらしき命を楯として

私たちを守って下さったあなたの方

のおかげで七十年もの年月を平和に

過ごさせて頂きました

ありがたいことでした

贈られた新茶に七十年が

一度に思い出された一日でした



嘘のような本当の話

津田校区 塩見 幸一

十月の声を聞くと、播州路ではあ

ちらこちらから太鼓の音が聞こえてくる。

そこで思い出されるのが子供の頃に見た迫力のある力強い屋台練りである。

あれは、シデ振り役の小学生の頃、「子供はどけ」と云われ、片方に寄ると重い屋台を「それ!!」の掛け声と共に担ぎ上げ、屋台がや々と通れる程の道を「ヨイサ、ヨイサ」と小走りに約百メートルの距離を一度も落さず担ぎ切った。何故そうなったのか。それは、我が住む地域は昔は農家が多く、田植え後には特に水が欠かせない。上の方から下の田へ入れるので大変な苦勞があり、口争いもあったと聞いた。その水が原因で、年に一度の秋祭りこぜりで小競り合いが起きるのもわかる気がする。それを避けるために「子供はどけ」となったのである。

雑感

英賀保校区 田中 日出樹

私も後期高齢者となったが、この機会に充実した余生の過ごし方を考えてみた。

①健康年令

生きているかぎり、自分のこと

は自分でできる自立した生活をした
いものである。そのための方策として、体力作り、趣味、社会奉仕などが考えられる。現在、町の生涯クラブ活動で、市推奨の体操（いきいき百歳体操、ガンバルンバ体操）を毎週実施し、二年が経過したが、今後も続けたい。他の高齢者の方の活動は、河川敷の散歩、ジョギング、犬の散歩、畑仕事、ゴルフ、プールなど参考になることが多い。また、英賀保校区老人クラブでも、グラウンドゴルフ、ペタンク、カラオケ大会など活動が活発であり、できるだけ参加したい。

②社会奉仕と仲間作り

町、校区生涯クラブ活動で公園、神社の清掃、SPC、バス旅行などがあるが、回覧、日常会話などで参加を呼びかけ多くの方と参加したい。また、毎年、教師OB会で、総会をはじめ、兵庫県の地区めぐりや（朝来町の水力発電所、神戸市須磨離宮、尼崎市史跡、宍粟市の最上山の紅葉、酒蔵見学伊和神社、丹波篠山の史跡など）姫路市近辺の地区めぐり（家島、大塩、的形、英賀保、書写山、加古川の鶴林寺など）親睦旅行などで交流し、いろんな人と昔話・近況報告などで生活のあり方の参考になっている。今後もこういった活動を体に留意して続けていきたい。

自己変革

太市校区 森下 匡

私は八十才の誕生日を機に、ホームドクターを心療内科医から循環器内科医にかわりました。

十一年間にわたる妻のアルツハイマー病の介護に疲れはて、うつ病になり、癌、脳梗塞と人並みの病も経験しました。そして、血液の改善のため訪れた病院で、そのドクターの指導と、私の念願でもあった精神安定剤の服用を思いきって止めました。

何とこの歳で頭脳が冴えてきたのです。私は青年期から一貫して求めて来た人間そのものへの関心が実を結びだしたような気がします。とても思いながらも、人の心が読めだし、毎日の生活にはりを感じ、独り身になった淋しさから、孤独を楽しむ生き方へと変わって来ました。これは、薬の影響ではないかと考え、そうだとすれば、ドクターの助言のお陰だと感謝しております。



会長のカバン(1)

曾左校区 富松 正義

「会長のランドセル」から十五年の年月が流れて高齢化社会時代に入りました。当時書写老人会も二丁目と三丁目に分かれ、今年十五周年になり、名称も老人クラブに変更、会員も三十六名になりました。当時は二十名で会を創会、私も六十才で会員になりました。

ある日、老先輩二人の作戦にのり同行した先が校区会長会議でした。「二丁目老人会長です」と紹介され、驚き呆気にとられ本当にびっくり致しましたが、にこにこ笑顔の二人の策略に負け、そして四年間会長を勉強致しました。市老連の数少ない六十才の会長でした。あれから十五年、今はクラブの方々が、色々なスポーツに取組んでおられます。一番驚いたことは、公民館内に卓球クラブが出来て会員の方々も楽しく大きい声で元気に練習されてました。只一つ残念なことは、十五年前に私が提案し実行されていた月一回町内SPCがいつのまにか消滅してしまいました。十五周年記念に役員の方々と相談し復活してみようと思っています。会長のカバン一杯勉強し頑張ろう。

人生の始まりは…。

的形校区 栗賀 倭美

人生の始まりはいつか、生まれたとき、それよりも前。二人の新米聖職者が議論をするがわからない。近くにいた老婦人に聞いた。人生の始まりは…。

「そりゃあ、子どもが巣立ち、夫と飼う犬が亡くなってからが、人生の始まりさ」と一笑了。

この文を読んで自分がいま、同じ立場であることに気付く。犬ならぬ飼う猫と私は二十年を暮らしていた。夫はとても猫を可愛がり、夕食後、ガウンの懷に猫を抱き、いつも夜の散歩をしていました。

「お孫さんですか」通りがかりの人が覗き込み、猫に驚く人もあって、夫と猫の楽しい時間がありました。夫が亡くなったあと、猫は私と二十年を生き、夫のもとに旅立った。

先の老婦人の話によると、私は今人生の始まりを生きていることになる。健康面の不安や、悩みなど多いけれど、韓国ドラマにはまって楽しんで、グラウンドゴルフの練習に行くこともあり、自由に時間を使っています。

身体的に無理な時もあるけれど、

まわりの人に支えられて、確かに今は今、人生の始まりを生きているのかも…そんな気がする、一文章に出合いました。

生涯現役

大津校区 吉田 敬郎

この齢になると人生は不可解な奇跡は起る。二度あることは三度ある。

学生時代に二度脳膜炎に。ストレプトマイシンで完治。三十五才の時、十万人に一人という脊髄腫瘍で一年間入院。鰻の蒲焼の如く背中を割って手術。九死に一生を得て四十五年五体満足な身体になるなら世の為人の為に尽くさせてくれと誓った。

自分自身今、それが現実となつて還元できる。こんな嬉しいことはこの世にない。神のお陰と思っている。現在は糖尿病と闘いながら日が昇る時から落ちる迄、仕事と趣味とボランティアに明け暮れ、年令など関係なし。これが私の生き甲斐です。何時お迎えが来たって悔いはない。

七時に十八年通う喫茶店に始まり、農用水路の掃除、公園の草刈りや樹木の剪定、小さいながら田畑の守り、ゴルフ、グラウンドゴルフ、詩吟の稽古、ダンス教室にカラオケ、

お寺の世話人、年金友の会の班長、生涯大学、長松生涯クラブ会長、数えれば枚挙に暇がない充実した日々です。これが生涯現役だと解釈している。



元気だしなはれ

津田校区 吉田 修三

白熊がプレゼントに貰った大きな水柱をすっかり両手で抱きかかえ、何回も頬ずりをしている姿をTVで見えて羨ましい。暑い毎日に水分の補給で忙しい。昔の人は、お盆を過ぎたら朝夕が凄まじくやくなると我慢どころを示しているが、近年はこれに通じない。この暑さなら十月ごろまで続きそう。この頃は何かにつけて「ネガティブ」で回転は鈍く、声は小さくて滑舌は頗る悪い。「もうエエとこなしやなあ。」

「やあMさん久し振りです元気し

とつてか。」

「まあ、せんどぶりやわあ。お元氣そうね。」

「いやいや見ての通り空元氣ですわ。今日はシュツとしてどこへ？」

「神戸の孫の顔を見てこようと
思つてね。」

「素晴らしいステキなおばあちゃんね。お孫さんもきつと喜ぶよ。暑いから気を付けてね。」

「ありがとう。」

Mさんは清々しい涼風のように駅への近道を通り抜けて行つた。私はあなたとのさりげない会話で元気をいただきました。

活動報告

初出場で準優勝

八幡校区 田中久雄

皆さん、自転車を安全に乗って便利に使っていますか？

現在、高齢者の自転車事故が増加しています。気をつけましょう。

網干警察署と網干交通安全協会は、高齢者の事故防止活動の一環として校区対抗高齢者自転車コンテス

トを毎年開催され、今回が十二目で五月二十七日に網干自動車教習所で実施されました。

広畑地区が今年より網干署管内になり、八幡校区にも初めて出場要請がありました。網干警察署管内は網干・網干西・大津・南大津・大津茂・勝原・余部・旭陽・八幡の九チームが出場しました。

我チームは四名で編成し、晴天の暑い中、励まし合つて安全規則と確認を確実に守って頑張りました。結果は、初出場で準優勝し、他チーム



の方々から『ホー』という声と拍手を頂きました。

実技と学科試験の総合五〇〇点満点で競われました。

一位 大津茂 四七一点
二位 八幡 四〇六点
三位 網干 四〇一点

競技を通じて感じたことは、安全確認が抜け易いということです。

年齢を加える毎に、運転をより慎重にしましょう。

コミュニティ・ガーデン作りをめざして

広畑校区 久保兼光

広畑校区にある北河原第一公園は、かなり広い公園です。樹木や雑草が生い茂り公園の茂みには野良猫が住みついて、とても公園と言える状況ではありませんでした。

公園で遊ぶ子供の姿もまばらで、いわゆる「人が寄り付かない公園」でした。そこで、平成二十四年度から私は、当時の下河原自治会長として姫路市みどり整備室へ相談の上、数々の「要望書」を提出し、その都度みどり整備室の担当者が誠意をもって真摯に対応してくださいました。

特に老人クラブ有志の皆さんが自



主的にご協力くださり、現在は当時に比べて見違えるような「美しい公園」になりました。一年を通して季節の花が咲いており、子供たちが多勢集まって賑やかに元気な声を出して遊んでくれるようになりました。

高齢の方々も、公園の花を見るのが楽しみで、訪れるようになりしました。「子供が安全で安心して遊べる公園づくり」、つまり私たちが目指した、コミュニティ・ガーデンが今ようやく実現しつつあります。

短歌

熟年歌壇 — 投稿

見送りの船出でゆきし棧橋に
蝙蝠傘五本と共に佇む
家島 塩澤 文字

草叢の小さき朝顔刈られたり
秋の虫らの声もろ共に
城 翼 谷 文字

くちなしの蕾の中の花ひとつ
今朝咲きいでて匂いあたらし
野里 江本 幸子

正座して〈般若心経〉写経するも
邪念浮かびてしよせん凡人
余部 上田 福男

雨上りの真珠の輝き水玉で
ドレスアップの青き紫陽花
御国野 榮川 米子

カフェテラスの隣の客は誰を待つ
コーヒー三杯灰皿二つ
家島 芝原美恵子

ハルビンの地獄のごときあの道は
断じて行くな若人達よ
広畑第二 森下 雄幸

うちの猫今が青春泥んこで
五泊六日の旅より戻る
大津 田井東吉三

家事はかどらぬこと嘆くまじ
覚えたての歌を唄いて厨に立てり
余部 平山 廣嘉

アルバムの中か懐かしきネパールは
大地震くまえて胸迫りくる
八幡 藤本 篤子

亡き友の増えぬを祈り喜寿まぢかの
小学校の同期会待つ
津田 後藤 敦子

「どうぞ」と立ち席を譲った女の児に
拍手をしたり心の中で
津田 井上 幸子

大三島の友に逢わんと一人旅
やっと来ましたお墓参りに
南大津 入江のぶ子

夕光に庭の小石がオレンジに
染まりたる後灰色となる
勝原 塚本 清子

中庭の草引きせんと嫁来たり
嬉しさ隠さず指図する老主
八木 田中リツ子

松を照らし西へ西へと傾きぬ
怪しきまでのスーパームーン
網十西 三木よし子

軒下で雨に濡れいる笹飾り
星に届くか短冊の夢
大津茂 天野 昭子

油蟬法師蟬へと鳴きつぎて
さるすべり盛んああ晩夏なり
網十西 中山小夜子

高齢を幸齢に替え元気でと
娘の便り父の日の今日
城陽 黒田 昭代

宅地化し少なくなった田園に
早苗植えゆくことのよるこび
御国野 岩山志保子

色褪せし妻のアルバム緋けは
憶ひは尽きず夏の夜の更け
谷内 河本 登

お日様を慕いて夏のひまわりは
まっ青な空を見あげて開く
青山 片山喜栄子

俳句

熟年俳壇 — 投稿

先生の笛にプールの騒ぎ止む
八木 梶原 武子

○城出でて直ぐサイダーを飲みにつけり
別所 矢島 勉

○けふよりは僧の衣は紵に替はり
御国野 中村 玉美

○夕立に逃げ込む駅や人いされ
荒川 上杉 洋子

○サンガラス満面の笑み伝はらず
妻 鹿 篠原 泰子

○母の日やメス入れる身を母に託ぶ
飾磨西 坪田 眞澄

海開きペンキの匂ふ貸しボート
飾磨中島 東 勝美

須磨寺の斬首の松や破れ傘
峰 相 木下 秀信

水旗見つけて子等の走り出す
飾磨東 室田ひろみ

軒先に吊す風鈴南部鉄
城東 井口 由恵

老鶯の舒残して谷下る
八木 中村 佳行

雨の中蓮清らかに迫りくる
荒川 三輪 忠子

山裾におじぎしながら七変化
荒川 宮部 定子

風鈴の音に癒される余生かな
城東 後藤 新男

恙なくひと日の暮れて夕端居
広峰 井上 朝子

遠火花歎声あがる歩道橋
白浜 菊地 知子

炎天下一歩踏み出す勇氣かな
八木 山本 幸子

主なき庭に凜凜しく立葵
高浜 青山 春子

啞蟬の気儘きままに似たる余生かな
飾磨中島 犬塚ひさ子

補聴器も輪に入り踊る夏祭り
中寺 山田きみよ

若葉風グラウンドゴルフ弾む声
城北 浅田 亨

新緑や古城の裾を飾りをり
別所 林 昭美

曲りでも初生り胡瓜妻を呼ぶ
旭陽 内海 良典

孫の手におそろのおそろの螢かな
香呂南 中務みき子

昼寝覚めいくつ越えたや一里塚
野里 綿貫 澄子

黄昏れて夕顔白く浮き立ちぬ
勝原 井貫ミヤ子

石舞台おはぐる蜻蛉羽根自慢
中寺 前田眞佐子

夏木立会話のはづむ歩道かな
妻 鹿 八十川千恵

老鶯や千姫偲ぶ城の森
城陽 三木 忠典

純白の命はかなき沙羅の花
荒川 田中 澄子

雷鳴を聞いてもつれし老いの足

谷 外 林 庄治

薄明り十葉白き城の井戸

大 塩 中村 千里

青々と山膨らんで迫り来る

余 部 山根 義子

〈選者より〉

次回出句の季題は「秋」または「冬」です。葉書一枚に三句以内とし、有季定型の句をお待ちしています。

すしやか句会

—趣味の教室

紫陽花やカラフル傘と競ひ合ひ
松岡 洋 巨 選

城 陽 青山 一蔵

美しや角直角の冷奴

四 郷 伊藤 淳子

父の日のカンカン帽の遺影かな

広 峰 井上 志朗

ざわざわと竹の皮散る風の道

香呂南 江藤かつえ

朝霞やぶりに来る応援歌

妻 鹿 大石 隆夫

来る夏にまづ髪切つて身構へる

糸 引 岡本 清子

長梅雨や部屋で旅する時刻表

前之庄 片岡サヨ子

雨止んで清しき風や山開き

古 知 亀井 榮弘

木洩れ日に憩うて暫し汗拭ふ

城 東 神崎 幸世

駅裏のシャッター通り飛ぶつばめ

城 乾 木下 安江

緑立つ神社の森や風渡る

豊 富 久保 善之

半夏生蛸が逃げ出す魚の棚

広 畑 黒坂 保矩

手放せぬ洗ひざらしの夏帽子

御国野 黒田 耕造

石臼に心もとなき浮葉かな

白 浜 小西 敬子

杜若過ぎ行く風も紫に

英賀保 坂本 重雄

俳聖の訪ひし山寺蟬いづこ

安 室 坂本 正剛

緑陰にひとり坐りてよき日和

手 柄 菅野 寛

涼風や床几の下に猫二匹

花 田 菅原 理

青柿の落つる音する昼下り

城 東 鈴木 章子

旅で買ふ一寸自慢の夏帽子

安室東 谷岡 芳子

涼風をとどめ置きたる書院かな

城 翼 中島 保

泳ぐ子を見守りおはす浜地蔵

荒 川 中野 妙子

雨期の川どこまで流る鴨二つ

増 位 仁上モトエ

夕顔や石段降りる蛇の目傘

御国野 西田 建

小柄なる老農ひとり青田風

谷 内 橋本和佳子

夏のれん一味違ふおもてなし

城 西 長谷川泰子

淑女ぶるここだけでもと夏句会

城 東 別所佳代子

梅雨空を残して北へ船の旅

東 堀内 勝子

雨降りに蛙合唱バスアルト

御国野 三木 敏夫

朝採れの曲り胡瓜に手を伸す

大津茂 望月 久雄

色も又無言の言葉半夏生

飾磨東 山本 禎次

〈選者吟〉

きりぎりすちよんと一声捨て台詞

松岡 洋巨

川柳

熟年川柳

—投稿

綾部 明 美 選

まだくゝの気合で今朝も靴をはく

高岡西 堂浦 勝

城盛況郊外バスがらんがら

谷 外 長浜 和子

あちこちの錆が自慢の咳ばらい

水 上 田邊 禎一

担当医何時も一言齡だから

妻 鹿 篠原 繁明

鈴虫が家エサ付きで嫁に来る

英賀保 木村 倫代

目も悪い頭も悪いでも元氣

前之庄 三木さよ子

山登り格好だけはガイド並み

谷 内 西口 紀夫

わすれられひっそり咲いた花に詫び

船 津 平石 聰子

今の世は嫉と言つて子をいじめ

昉 野 椿 安幸

洒落た服届いてうれし父の日に

御国野 中村 仁

介護して又も芽生える夫婦愛

豊 富 大西 初美

箱庭の狭い中にも四季がある

網 干 衛藤 富子

年重ねあればそれはで通じあい

白 鳥 黒木夕子

亡き夫と墓前で話す三十忌

網干西 丸尾富美子

蓄えを孫の学費の充てにされ

選者 綾部 明美

川柳『千姫』

前 田 英巳代 選

鈍くさい男がチョット出す色気

谷 外 吉田 五郎

磨いても落とせぬ錆が増えてゆく

城 北 美原よしの

どん底で温かいことばに生き返る

曾 左 福本 貞子

振り向けば残り時間に急かされる

手 柄 長谷川妙子

庭の花散りて若葉に目がさめる

谷 内 八百田鶴子

初夏の風巾着袋にしまう夢

水 上 田中 怜子

断捨離を決意しても元のまま

高岡西 梅田 泰三

手抜きしてそれでもうまい三食を

八 幡 川崎 怜子

長風呂の夫が心配戸をたたく

峰 相 洪水 京子

10月からの行事予定

10月	
1日	機関紙「熟年93号」発行
27日	高齢者スポーツ大会 (ウインク陸上競技場)
11月	
18日	社会福祉大会 (姫路市市民会館)
24日	S P C 作戦 (市内全域)
12月	
1日	女性クラブリーダー研修会 (姫路市市民会館)
13日	生涯現役フェスティバルin姫路 (姫路市文化センター)
1月	
29日	交通安全大会 (姫路市文化センター)
2月	
1日	機関紙「熟年94号」発行
16日	高齢者芸能発表会 (姫路市文化センター)

「生涯現役フェスティバル2015 in 姫路」

観覧希望者を募集します

姫路市では、シニア世代が生き生きと輝く社会を目指して、今年も生涯現役フェスティバルを開催します。

・日時 平成27年12月13日(日) 10:00～16:00

(※大ホールイベントは13:30から)

・会場 姫路市文化センター

・内容

映画評論家・パーソナリティーの浜村淳さんによるトークショー	要申込	大ホール
シニア世代の市民が出演する「創作ミュージカル」	要申込	大ホール
趣味のグループによる音楽やダンスのステージ		小ホール
来場者が参加・体験できるアトラクションイベント		展示室

・申込方法 浜村淳さんのトークショーと創作ミュージカルの観覧には、事前申込みが必要です。11月20日(金)までに、ハガキ、ファクスまたはメールで、**申込者全員**の郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、参加人数を生涯現役推進室まで。1通で2名まで。生涯現役推進室のホームページからも申込みできます。定員1,300人、応募者多数の場合は抽選します。抽選結果は12月初旬に郵送します。

・申し込み・問い合わせ先

〒670-8501 姫路市安田四丁目1番地 生涯現役推進室

TEL:221-2986 FAX:221-2972 メール:ikigai@city.himeji.hyogo.jp



本年度も愛の募金にご協力下さいますようお願い致します。この貴重な募金は主として次のような活動に活用させていただきます。

- 老人クラブ会員の災害見舞金
- 友愛訪問品づくり
- 寝たきり・独り暮らし会員の訪問
- シルバーヘルパー養成研修

編集後記

私たちは、四季のある国に住んでいていいなあと、四季の移ろい頃になるといつもそう思います。ようやく夏の暑さを忘れさせてくれる好季を迎えましたが、皆様如何お過ごしでしょうか。「熟年」九十三号を皆様にお届けする運びとなりました。編集に携わりながら、「生涯現役」をめざした活動報告や、長年の経験から生まれた物事の多様な見方、考え方に触れることができ、勉強させていただきました。編集に当たって、文章を損なわない程度の添削をさせていただいた部分があることを、投稿くださった一部の方にお断りいたします。

(広報編集部)

『熟年』の原稿を募集します

投稿規程

- (一) 投稿は会員に限りません。校区名・氏名・電話番号を必ず記入して下さい。
- (二) 提言・主張・随想・クラブ活動の様子など、写真や図を除いて四百字以内でお願いします。
- (三) 短歌・俳句・川柳・詩などは、葉書一枚に一人三首(句・篇)まで。
- 俳句は、俳句欄末の兼題で、葉書で投稿して下さい。なお雅号は不可です。
- 詩は十六字×二十行以内で。
- (四) 編集の都合で添削し、割愛または次号以降に回すことがあります。あらかじめご了承下さい。
- (五) 原稿はすべて返却しません。

原稿の送り先

〒670-0943
姫路市市之郷一〇〇六八
姫路市すこやかセンター内
老人クラブ事務局「熟年」係へ
FAX(079) 223-6128
次回締切りは**十二月一日**です。

老人クラブ事務局執務時間

午前九時〇〇分より
午後五時〇〇分まで
(日曜・祝日及び水曜日は休日・土曜日は午前九時より午後三時まで)